

【大学間協定留学】 留学報告書

記入日	2026 年 7 月 24 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	農学部 農学科
留学(渡航)した時の学年	3 年生
帰国年月日	2026 年 7 月 16 日
明治大学卒業予定年月	2028 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	オーストラリア
留学先大学	エディス・コーワン大学(日本語名) Edith Cowan University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/英語
留学期間	2026 年 2 月～2026 年 7 月
留学先大学で在籍した学年	3 年生
留学先の所属学部等	☐ 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: ☒ 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している ☐ その他:
形態	☐ 国立 ☒ 公立 ☐ 私立 ☐ その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 2 月下旬～6 月下旬 2 学期: 7 月下旬～11 月下旬 3 学期: 4 学期:
学生数	約 31,000 人
創立年	1991 年

留学費用			
留学費用項目	A 現地通貨 (1AUD) (1 現地通貨 = 95 円)	B 日本円	備考
授業料	0	0 円	交換留学のため
宿舍費	6,000	0 円	ECU Village(約 250AUD/週)
食費	3,800	0 円	
図書費	0	0 円	
学用品費	120	0 円	
携帯・インターネット費	180	0 円	Optus
現地交通費	500	0 円	大学までバス(☐ 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	2,000	0 円	
旅費(留学中)	2,000	0 円	ブリスベン・シドニー、メルボルン
被服費	800	0 円	
医療費	300	0 円	
保険費	350	0 円	形態: OSHC(Medibank)
渡航旅費	0	210,000 円	
ビザ申請費	2,000	0 円	
雑費	500	0 円	
その他		円	
その他		円	
合計 ※現地通貨 および 円	18,550 AUD (=2,119,690 円)	210,000 円	
総計(A+B) ※円		2,329,690 円	

※現地通貨で支払ったものは「A 現地通貨」の欄に、日本円で支払ったものは「B 日本円」の欄に記入し、総計も記入してください。

※現地通貨名、現地通貨と円の為替レートも必ず記入してください。

渡航関連

渡航経路

往路 出発地：東京(成田) 目的地：パース 経由地：クアラルンプール

復路 出発地：パース 目的地：東京(成田) 経由地：香港

渡航費用

① 往復チケットを購入した場合

航空会社：

料金：

② 片道ずつチケットを購入した場合

往路 航空会社： バティック・エア・マレーシア(Batik Air Malaysia) 料金： 約 120,000 円

復路 航空会社： キャセイパシフィック航空(Cathay Pacific) 料金： 約 90,000

∴合計：

210,000 円

航空券購入方法

☐ 旅行代理店(店名：)

☒ インターネット(サイト名： Trip.com)

☐ その他()

滞在形態関連

1) 種類(留学中の滞在先)(例：アパート、大学の宿舎等)

☒ 学生寮(寮の名前：) ☐ アパート ☐ ホームステイ

2) 部屋の形態

☒ 個室 ☐ 相部屋(同居人数)

3) 共有部分

☒ バス ☒ トイレ ☒ キッチン(☒ 自炊可 ☐ 自炊不可)

4) 住居を探した方法：

大学からのおすすめ

5) 感想：(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

私は ECU Village Mount Lawley の 6 人部屋(Lakeside)に滞在した。週約 250AUD と比較的リーズナブルな料金で利用することができた。洗濯室は寮内にあり、洗濯機は 1 回 4AUD、乾燥機は 1 回 3AUD で利用できた。また、毎週火曜日と土曜日には無料のグロサリー配布があり、野菜などの食材を受け取ることができたため、生活費の節約にもつながった。

共用施設も充実しており、プールのほか、卓球台やビリヤード台、OTT サービスを視聴できるテレビ、スタディールーム、音楽室などを備えた Rec Room が利用できた。さらに、イベントが頻繁に開催されていたため、友人を作る機会が多く、非常に充実した学生生活を送ることができた。ECU の学生だけでなく、他大学の学生も入居できるため、さまざまな国籍・大学の学生と交流できた点も魅力であった。

一方で、Mount Lawley キャンパスは 2025 年をもって閉鎖されたため、ECU Village Mount Lawley も 2026 年で営業を終了する予定である。2027 年からは City キャンパス付近へ新しい学生寮が開設される予定であるが、家賃は現在より高くなると聞いている。

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☐ なし

☒ あり (治療を受けた場所: GP)

2) 留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

現地のニュースや大学からのメール、周囲の友人から治安情報を収集していた。また、夜間の一人歩きを避け、人通りの少ない場所には近づかないよう心掛けた。貴重品は常に身につけ、荷物から目を離さないよう注意していた。留学期間中に盗難などの犯罪被害に遭うことはなかった。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

寮の Wi-Fi は安定しており、日常生活やオンライン授業で不便を感じることはなかった。また、パース到着後 2 日目に Optus で 6 か月プランの SIM カードを契約して利用した。通信環境は良好で、留学期間中に接続トラブルなどの不便を感じることは一度もなかった。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

現地で Commonwealth Bank の銀行口座を開設し、日本にいる親から送金を受けて生活費に充てた。また、クレジットカードも併用して利用した。寮の家賃はクレジットカードを登録し、2 週間ごとに自動引き落としとなっていた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。

特になし。日用品や生活必需品は現地でほとんど購入できるため、不便を感じることはなかった。

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

交換留学のため、該当なし。

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)

1) 留学先で取得した単位数合計		本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
4 単位		☒ 4 単位 ☐ 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限		
☒ 出発前 ☐ 出発後 ☐ 派遣先大学の事務室 ☐ オンライン ☐ メール ☐ その他() ☐ 履修の制限があった:		
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。 記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。		
履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Food safety		食品安全学
科目設置学部・研究科	School of Medical and Health Sciences	
履修期間	2026 年 2 月～2026 年 6 月	
単位数	15 credit	
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 120 分が1回	
担当教授	Nicole	
授業内容	食品衛生、食品由来感染症、HACCP、食品安全管理システム、食品法規、アレルギー管理などについて学んだ。	
試験・課題等	レポート	
感想を自由記入	食品安全について体系的に学び、HACCP や食品法規など実践的な知識を身につけることができた。オーストラリアと日本の食品安全管理の違いについても理解が深まり、食品産業における衛生管理の重要性を改めて実感した。留学では専門知識だけでなく、英語で専門科目を学ぶ力も養うことができた。これから留学する学生には、分からないことがあれば積極的に質問し、グループワークにも積極的に参加することを勧めたい。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Foundations of Advertising		広告学基礎
科目設置学部・研究科	School of Business and Law	
履修期間	2026 年 2 月～2026 年 6 月	
単位数	15 credit	
本学での単位認定状況	2 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義・グループワーク(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 180 分が 1 回	
担当教授	Dr Kelly CHOONG	
授業内容	広告の基礎理論、マーケティング、消費者行動、広告戦略、ブランドコミュニケーションについて学んだ。また、実際の企業を題材に広告企画やプレゼンテーションを行った。	
試験・課題等	グループプレゼンテーション、レポート	
感想を自由記入	広告が消費者に与える影響やマーケティングとの関係について理解を深めることができた。留学生とのグループワークでは、異なる価値観に触れながら協力して課題に取り組む経験ができ、英語で意見を伝える力も向上した。これから留学する学生には、積極的に発言し、グループ活動を楽しんでほしい。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記2以降は記入不要)

☐就職 ☒進学 ☐未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

UWA、ECU など大学のウェブサイト

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。
内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。
就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動に向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。
ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。
就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

オーストラリアの大学院への進学を希望している。特に、西オーストラリア大学(UWA)を進学先の候補として考えている。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

留学前に英語力をできるだけ高めておくことを勧める。特に TOEFL や IELTS などの英語試験は早めに準備を始めることで、留学中の授業や日常生活にも余裕を持って取り組むことができる。また、積極的に現地の学生や留学生と交流することで、語学力だけでなく異文化理解も深めることができる。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先確保、留学中の中間試験・期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ～ 3 月	語学試験の勉強
	4 月 ～ 7 月	語学試験の勉強
	8 月 ～ 9 月	選考
	10 月 ～ 12 月	出願、ビザ申請・取得
留学開始年	1 月 ～ 3 月	航空券購入、滞在先確保、留学開始
	4 月 ～ 7 月	留学、帰国
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	
留学/帰国年	1 月 ～ 3 月	
	4 月 ～ 7 月	
	8 月 ～ 9 月	
	10 月 ～ 12 月	

留学を志す学生へのアドバイス

※ これから留学を志す学生へ、この留学先国・大学を選んだ理由、留学生生活全般等について、アドバイスを記入してください。

私は、英語力を向上させたいという目標に加え、日本とは異なる自然環境や文化を実際に体験したいと考え、オーストラリアを留学先として選択しました。また、多国籍の学生とともに学ぶことができる国際的な環境や、留学生へのサポートが充実している点も、ECU を選んだ理由の一つでした。実際に留学生生活を送る中で、授業だけでなく寮生活や大学内のイベントを通して多くの国の学生と交流することができ、語学力だけでなく、多様な文化や価値観への理解を深める貴重な経験となりました。

特に ECU Village では、ゲームイベントや文化交流イベントなど、留学生向けのイベントが頻繁に開催されていました。私自身も積極的に参加したことで、多くの友人を作ることができました。また、ECU の学生だけでなく、他大学の学生と一緒に生活していたため、さまざまなバックグラウンドを持つ学生と交流できたことも非常に印象的でした。

留学当初は、英語で会話することに不安があり、間違えることを恐れて積極的に話しかけることができませんでした。しかし、留学生生活を送る中で、完璧な英語を話すことよりも、自分から積極的に行動し、コミュニケーションを取ろうとする姿勢の方が大切であることを実感しました。文法や発音が完璧でなくても、相手はしっかりと耳を傾けてくれ、そのような経験を重ねることで自然と英語力も向上していきました。

また、留学は授業だけで終わるものではないと感じました。私はブリスベン、シドニー、メルボルンなどを訪れ、それぞれ異なる文化や街の雰囲気、自然環境に触れることができました。農学を専攻する学生として、オーストラリアの豊かな自然や都市景観を実際に見ることができたことは、教室では得ることのできない大きな学びとなりました。

一方で、積極性だけでは限界があるとも感じました。現地の学生とともに授業を受け、日常生活を送るためには、基本的な英語力が不可欠です。そのため、留学開始前までに継続して英語を勉強し、基礎的なコミュニケーション能力を身につけておくことが重要だと思います。英語への不安が少ないほど、授業内容の理解が深まるだけでなく、多くの学生と積極的に交流することができ、より充実した留学生活につながると思います。

交換留学の期間は想像以上に短いものです。迷うよりも、自分から積極的に行動し、大学が提供するイベントやプログラムに参加して、多くの人と交流しながら現地でしかできない経験に挑戦してほしいと思います。そのような経験の積み重ねが、交換留学をより充実した、かけがえのないものにしてくれると考えています。